

第 66 回 広島大学教育学部国語教育学会 プログラム

日時 令和 7 年 8 月 11 日（月・祝）・12 日（火）
11 日…（受付開始 10:30）11:00～16:50
12 日…（受付開始 9:30）10:00～12:30

会場 広島大学教育学部 L205 教室

参加費 1,000 円（「学生会員」は無料）
※参加費および懇親会費は、事前にお振り込みください。

第 1 日 8 月 11 日（月・祝）

開会行事 11:00～11:10

研究発表（午前） 11:10～12:10

[11:10-11:40]

1. ふりかえりと方略習得を兼ねたコンピテンシーカードの提案

兵庫教育大学附属中学校 水田 遼介

[11:40-12:10]

2. （仮）生き生きとした言葉の教室をめざして—さまざまな表現実践から—

大阪府立登美丘高等学校 田中 啓介

休憩 12:10～13:20

総会 13:20～14:20

研究発表（午後） 14:30～15:30

[14:30-15:00]

3. 詩の創作による「見方・考え方」の発見をめざした授業づくり

—金子彦二郎の「暗示的指導」と「生徒作品例の教材化」を意識して—

近畿大学附属広島高等学校・中学校福山校 河隅 道子

[15:00-15:30]

4. ことばの教育の定位と挑戦—「私達まつり」を読み開く—

大阪府立今宮高等学校・桃山学院大学 小山 秀樹

休憩 15:30～15:40

特別研究発表 15:40～16:50

[15:40-15:50] 講師紹介

[15:50-16:50]

5. 読者のエンゲージメント、行為主体性、喜びを味わう読み

—読むことの教育研究の国際的動向—

広島大学 山元隆春

懇親会 18:00～20:00

会場：広島大学生協 北第 2 食堂 参加費 4,000 円

第 2 日 8 月 12 日（火）

研究協議 10:00～12:30

中学校・高等学校国語科におけるあたらしい授業づくりへの取り組みと課題（1）

【司会】 広島大学 間瀬 茂夫

【報告・提案】

広島県立福山明王台高等学校 横田 拓也

奈良女子大学附属中等教育学校 鹿島 大吾

福岡県立福岡高等学校 山口 倫香

【令和7年度研究協議会趣旨文】

中学校・高等学校国語科におけるあたらしい授業づくりへの取り組みと課題（1）

平成28年から平成30年にかけて改訂された中学校・高等学校学習指導要領の施行が、高等学校最終学年にまで及ぶ年度となりました。早くも中学校国語科については改訂された国語教科書の見本本が揃う時期にさしかかり、高等学校においても必修科目「言語文化」「現代の国語」教科書の改訂作業にそれぞれの教科書会社に取り組む時期となりました。

本学会の研究協議会では、コロナ禍の影響の続くなか開催された令和4年度に新しい学習指導要領による「あたらしい授業」をどのように進めるか、令和5年度に高等学校の「現代の国語」「言語文化」の学習指導、それぞれに関するご提案と議論を行い、その成果は学会誌『国語教育研究』に掲載されています。

現在は、日々の授業を進める上で何が達成されて、どういう課題が残されているのかということをも本格的に議論し、これからの国語科教育をどのように展開すればいいかを検討する時期であると考えます。令和6年度は、中学校・高等学校国語教科書における「読むこと」の新教材と授業づくりに関するご報告をいただき、議論を展開することになっております。一方で、「走れメロス」「羅生門」「夢十夜 第一夜」「水の東西」等、従来扱われてきた国語教科書「定番」教材は中学校・高等学校ともにその多くがいまも使われています。しかし、「社会に開かれた教育課程」を目指しているのが現在の学習指導要領であり、その大きな特徴でもあります。新旧教材がどのように生徒の将来につながる学習の契機になるかということを見極め、授業づくりにあらたに取り組んでいけばいいのか。令和7年度の研究協議会ではこのことに取り組んでいきたいと考えます。

どうすればいいか。たとえば次のように考えることができるのではないのでしょうか。

カリキュラムや授業を「社会に開かれた」ものにすることとは実用的なことをそのまま知識として習得させればいいということではないと思われます。その学習者が生きていくための原動力を授業で育てることが必要です。そのためには、いい教材を提供しているのだから教師や生徒がそれに合わせていくのが学ぶことであるという考え方から、自分が何に対してどのように取り組めばいいか、夢中に取り組むことになぜ価値があるのかということをも、生徒がわかるような授業を仕組むという考え方に転換していく必要があるのではないのでしょうか。教科書のなかに書かれてあることを生徒が自分のものにしたいと思わなければ、そこで学んだことは記憶に残りません。夢中に取り組むからこそ、学んだことは私たちの記憶に残ります。夢中で取り組むために重要なのは選ぶことです。学んだり、活動したり、お互いに関わり合うなかのどこかで自ら選ぶことがあれば、その学びはほんもの(authentic)に近づくと思われます。ほんものの学びだからこそ、学習者は本気になり、学んだことを自らの人生のなかでいかすことができるようになります。そうした学びを国語科で経験させるためにはどうすればいいのか、夢中で取り組ませるために必要な条件はどのようなものか。課題はどこにあるのか。令和7年度の研究協議会ではこうしたことを皆様と議論し、あたらしい授業づくりのための指針を共有できることができれば幸いです。